



見えなかった情報が、見えるようになる社会へ

■ まちなかにナビレンスを設置しています！

ナビレンス(NaviLens)とは、カラフルなコードをスマホで読み取ると、音声で「場所」や「案内」がわかる新しい技術です。

39言語に自動翻訳

音声でわかるから、見えなくても安心
日本語が苦手な方にも使える

■ この取り組みの3つの目的

① 情報づくりに参加できるしくみづくり

視覚障害者自身が、情報の調査、文章入力、検証、管理に関わっています。
→ 「使う人」から「つくる人」へ

② 安心して自分で歩けるまちへ

「今どこにいるか」「どこに向かえばいいか」が、スマホの音声でわかります。
→ 自分で判断し、行動できる安心感

③ 外国の方も、自分の言葉で案内がわかる

自動翻訳で39言語に対応。
→ 多文化・多言語にひらかれたまちづくり

どんな人も安心して歩けるまちへ
未来の子どもたちのために、今できることから

実施期間:2025年8月1日～10月31日



実施団体:特定非営利活動法人 輝色(きいろ)

協力:アイ・コラボレーション神戸

山形県視覚障がい者情報センター

山形県視覚障害者福祉協会

山形県網膜色素変性症協会

山形県社会福祉協議会

山形市社会福祉協議会

このカラフルな四角いコードが「ナビレンス」です。
スマホをかざすと、さまざまな情報を音声で聞くことができます。
ナビレンスは、許可をいただき、道路や施設に設置しています。

